

福島医療生協の現況

(2011年9月末現在)

- 組合員 28,735名
- 出資金 8億19,320千円
- 一人平均 28,510円

ふくしま

2011年11月号 第333号
発行責任者 渡辺幸夫
<http://www.fmc.u-coop.or.jp>

発行所
福島医療生協

医療生協

福島医療生活協同組合 TEL 024-522-1236
〒960-8141 福島市渡利字中江町66番地

医療生協わたり病院 TEL 024-521-2056
〒960-8141 福島市渡利字中江町34番地

東が九割、あづま・飯坂・清水北支部が年度目標の八割達成

出資金では、東支部が年度目標の九割、あづま・飯坂・清水北支部が八割を越え、渡利支部は五百万円を

震災原発事故で訪問出来なかつたお宅も含め、組合員を一気に十一人ふやしました。その後も訪問活動を行い年度目標の八割まであと六人となっています。

「力を合わせて、健康づくり、まちづくり」
信夫支部の地域訪問

越える目標に対して二百五十万円を突破しています。

東支部のあけぼの班は、六月から班長の富永清子さんが、第六次長期計画成功のために毎回の出資金を倍増していました。

進む配布ルートづくりと、増える機関紙配布数

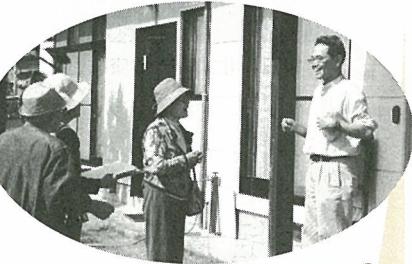
全支部で機関紙の配布ルートづくりが進んでいます。八・九月号の組合員全戸配布をきっかけに、全支部で配布ルートの地図化に取組み、地域の組合員の把握と、機関紙の重要性を再認識しました。



あづま支部は、10月8日・9日・15日に地域訪問

すべての支部で地域訪問を

もちすり・あづま・吉井田・信夫・保原・川西・渡利支部で訪問活動が行われています。信夫支部では十月八日に四組九人で訪問しました。震災原発事故で訪問出来なかつたお宅も含め、組合員を一気に十一人ふやしました。その後も訪問活動を行い年度目標の八割まであと六人となっています。



（十月一日～十一月三十日）

第六次長期計画成功に
向けて、生協強化月間スタート

これからも福島で生きていきたく



9月28日保原支部の地域訪問

月から班長の富永清子さんが、第六次長期計画成功のために毎回の出資金を倍増していました。

その結果、渡利支部では十月号から五百二十部、東支部では一百六十部、清水北支部では一百三十部、大笹生笹谷支部と保原支部が百部、清南支部が五十部の機関紙

機関紙を組合員のみなさんへ

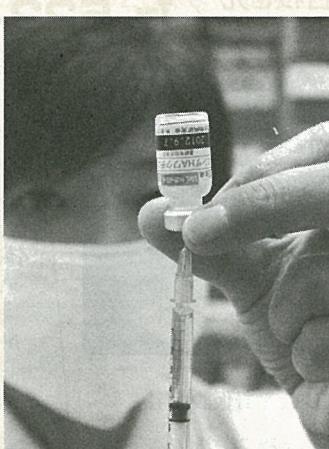
医療生協の活動をお知らせする機関紙を組合員のみなさんにお届けするのは、私たちの大きな願いです。保原支部では、五日間の訪問活動の中での訪問先で五人の方が機関紙の手配りさんになつていただきました。この

震災原発事故以降、多くの方が不安を抱える中、笑顔を絶やさず取組む組合員のみなさんの姿に心打たれました。いつしょにがんばりましょう。

笛生笹谷支部五名、信夫支部二名の手配りさんが増えました。

はならく姿

No.6



「そろそろ始めよう、インフルエンザ対策。」
小児科予防接種外来での準備のようす。

写真はイメージ。準備の合間に外来看護師の佐藤すみ子さんにご協力いただきました。

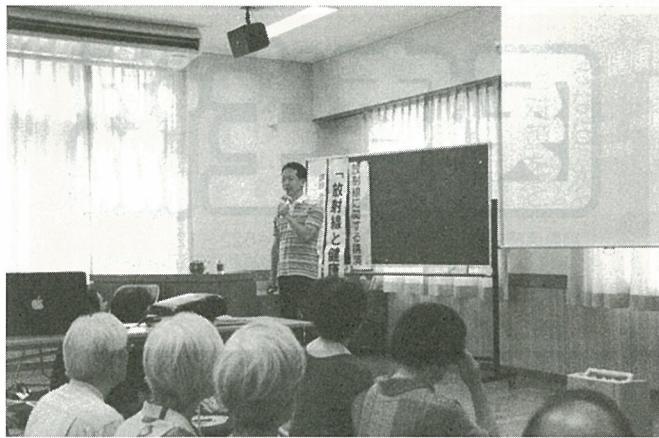
※このコーナーでは、福島医療生協で働く人々にスポットをあて、ご紹介していきます。

新しい手配りさん

渡利支部 広瀬君江さん
わたしも届けています

新しい手配りさんを募集しています

福島医療生協 組織部
お問い合わせ先 TEL. 522-1236



9月17日 北ブロック健康教室で講演する渡部朋幸副院長

地域では機関紙配布や班会を開催してきました。職員集会を朝夕に行ないながら医療の提供に万全を期してきました。浜通りから人工透析患者さん三十四人を、当面の住まいも確保して受け入れました。職員の宿泊所や臨時保育所を設置し、外來患者・職員向けに炊き出しあり実施しました。

震災直後に、わたり病院一階に対策本部を設置し、全職員集会を朝夕に行ないながら医療の提供に万全を期してきました。浜通りから人工透析患者さん三十四人を、当面の住まいも確保して受け入れました。職員の宿泊所や臨時保育所を設置し、外來患者・職員向けに炊き出しあり実施しました。

医療機能を確保しながら組合員・被災者を支援

専務理事
渡辺幸夫

のネットワークを生かし、安否確認や水・食料・燃料確保などの助け合いが行われました。さらに、各支部が近くの避難所に焼き出し支援などを行い、東高校での支援は新聞や医療福祉生協連の情報誌コムコムでも紹介されました。全国の医療生協から十二回に渡つて数百箱の支援物資が届き、避難所などに配布して喜ばれました。こうした取り組みは、医療生協の機関紙や班会として全国のネットワークが、暮らしの安心に結びついていることを証明しました。

現在は九支部が係わって、近くに建設された九か所の仮設住宅入居者へ健康チェックとお茶会の支援を行っています。その場で高知医療生協の組合員から送られた手編みのマフラー・帽子を配つて喜ばれています。

放射線汚染による健康被害について、医療生協の支部・ブロックで学習会を開催するとともに、他団体からの講演要請にも医師を中心には積極的に応え、参加者は約五十回で五千人を超えるました。また、食品からの内部被ばくを防ぐ方法を具体的に解説した書籍も五百冊以上普及しました。全国の医療生協から贈られた線量計の活用が各支部で行われています。ま

放射線汚染への対応



7月24日 渡利地区除染のようす

安心して暮せるセーフティボックス

～福島医療生協の震災・原発事故対策と今後～

金子吉輔

ことをスローガンに、「健康チャレンジ」の取り組みも広がっています。

七月に渡利の町内会と一緒に側溝や道路の除染に取り組むとともに、わたり病院の芝生撤去と院内保育所の除染を独自に行いました。病院内外の線量をホームページに表示するとともに、病院内外の線量をホームページとツイッターも開設しました。

病院内外の線量をホームページとツイッターも開設しました。病院内外の線量をホームページとツイッターも開設しました。病院内外の線量をホームページとツイッターも開設しました。

安心して暮らせる福島を取り戻すために

組合員・住民に共通する願いは、安心して暮らせる福島を取り戻すことです。福島医

療生協も組合員と地域の人々の健康と安心に貢献する立場から、そのためには、放射線汚染の現状を広く正確に把握するとともに、一刻も早い除染が求められます。そのため、政府の責任を明確にさせ、市や町が先頭に立ち、行政区や町内会が一体となつた取り組みをつくる方向で取り組みます。また、内部被ばくを出来るだけ抑え、放射線に負けない体を作る生活習慣づくりを推進します。さらに、原発の廃止と原発に頼らないエネルギー政策への転換を求めていきます。

高知の組合員さんからマフラーが届きました。



高知医療生協の中村東支部から100本・佐川支部から60本の毛糸、マフラーが届きました。あたかい心のこもった手作りのマフラーは、川俣・笹谷・平野仮設住宅の“お茶会”の参加者のみなさんにお贈りし、大変喜ばれていました。

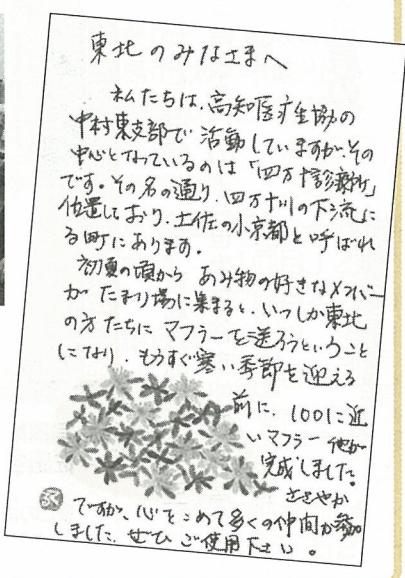
防寒具を募集しています!

仮設支援のために…

お問い合わせ先 福島医療生協組織部
TEL. 522-1236

高知のみなさんありがとうございます!
10/18 マフラーを手にして、平野仮設住宅。

届いたメッセージ



九月二十八日 政府交渉のようす

消費税は医療界にも大打撃

「社会保障と税の一体改革」を阻止しましょう

野田首相は国会で「社会保障と税の一体改革」で消費税増税法案を二〇一二年三月までに提出したいと表明しました。「社会保障に使うならOK」「震災復興のためなら仕方ないね」という声もありますが、国民にとって不公平で、医療界での負担も莫大なのが消費税です。今回は医療機関と消費税の関係についても考えてみましょう。



理事会会社委員会委員長
斎藤章衛

想いのこもった出資金の半分以上が消費税に

医療機関でも薬や建築、医療機器の購入に消費税を払っていますが、医療費は非課税ですので、消費税分をそのまま医療機関が負担します(表参照)。消費税導入から医療界全体で負担した消費税は、なんと総額六兆円です。当然医療界全体でも消費税増税を認めていません。

生協経理部によりますと、今年十月まで当生協の医療活動で払った消費税は、総額五億五千万円超です。組合員の思いがこもった福島医療生協の出資金はおよそ八億円になりますが、その半分以上の金額は消費税として国に納めなければなりませんでした。それでも医療や福祉には使われず主に国の

財政補てんという形で「消費税」されています。

復興に使うと信じる国民を裏切る行為

今回の増税計画の本音は財政再建であり、復興財源や社会保障には届きにくいのです。立案者の与謝野馨氏は、ずっと「消費税増税分は財政再建に使う」と言つてきました。

消費税は「低所得者ほど負担率が重い」性質の税制です。失業やワーキングプアの増加が以前から問題になりました。震災が拍車をかけています。今、社会保障に回されにくく消費税率を上げるのは、弱いものいじめそのものの政策です。

製薬会社	問屋	医療機関		患者
		税抜価格	1,000円	
税抜価格	600円	800円	1,000円	1,000円
消費税	30円	40円	0円	0円
税込価格	630円 課税	840円 課税	1,000円 非課税	1,000円 非課税
納付額 還付額	30円	10円	0円 40円負担有	消費税負担無

(注)消費税の税率は5%とします。
財団法人 大蔵財務協会発行「Q&A 医療機関の税務相談事例集」より抜粋



「ストップ!! 社会保障大改悪」署名

しかし、医療生協および民医連は、「自己責任論」を認めたことはありません。全国で一千万筆を目指とする「社会保障の充実を求める請願署名」に取り組み、消費税増税を阻止しましょう!

その後の接遇改善運動のテーマは、「(私たちの)患者さんにとってより良い医療とは、○○○です。」と決定しました。空欄の部分は、各々の部署で検討し、課題を見つけ、取組んでいきます。より良い医療の実現のために、接遇は大切な要素の一つです。みなさんにとって、より良い医療とはどういったものですか?



9/16午前の部の全体写真。講師の岡眞子先生(中央)は、自身も障害を持つ長男と、心疾患の次男の看病を経験している。患者本位の医療の提供を考える講義は、参加者に好感をもたれました。

医療生協わたり病院付属

ふれあいクリニックさくらみず所長交替のお知らせ

福島医療生活協同組合 理事長 平 範男
医療生協わたり病院 院長 丹治伸夫

この9月末を持って、医療生協わたり病院に18年間勤務された消化器内科の責任者であった奥村浩二医師が都合により退職され、三重県に戻られました。消化器内科はわたり病院の中心的診療科であり、病棟を担当する医師が3名から2名となり、病棟医師体制は極めて厳しい状況となりました。この事態に対して南3階消化器内科の病床をこれまでの3分の2の20床まで制限し、病床運用と医療安全を確保する措置をとりました。また、外来診療や当直医についても部分的に全日本民医連などの医師支援をうけながら、日常診療と医療安全を守るために全職員が一丸となって取り組んでいます。

この深刻な医師体制を少しでも改善するために11月よりふれあいクリニックさくらみず所長の土屋豊一医師をわたり病院担当することとしました。後任の所長には、これまでさくらみずの外来と在宅部門を担当してきた佐藤和典医師に担当していただくこととしました。

ふれあいクリニックさくらみず開所以来所長を担当してきた土屋豊一所長の突然の交替は組合員、患者のみなさまには多大なご迷惑をおかけすることになります。何卒ご理解のほどお願い申しあげます。

放射能から体を守るために、
日々の食生活を見直すことが
大切です。特に子供には、
安全なものを食べる
（特に子供には産地のわかる
ものを）
・家庭菜園など検査していない
ものは控える。もし食べるなら、
次の②のような安全対策をとる。
① 安全なものを食べる
（特に子供には産地のわかる
ものを）
・魚介類・海藻類は生育、生
産地をチェックする。
（政府の安全情報で確認
し、制限がかったものは避
ける）
② セシウムが水に溶け出る
性質を利用する
・野菜は皮をむき流水でよく洗う。
・薄く切って水または薄い
塩水にさらす。

*参考文献／日本大学放射線防護学
野口邦和著 法研「放射能からママと子どもを守る本」
①毎食「主食・主菜・副菜」の材料が使われている食事を腹八分目にする。
主食=ご飯、パン、麺 1つ
主菜=肉、魚、卵、大豆製品、チーズ 1~2つ
副菜=野菜料理や果物 1~3品
②節度ある間食や菓子の利用
・牛乳、ヨーグルト、果物を利用するは良い。
・菓子は1日1回まで。
③野菜、海藻、きのこ、果物、発酵食品を食べて便秘を予防する。
・食材の彩り（白・黒・赤・黄・緑）整えると無理なく摂取できる。
・植物が紫外線や虫などから身を守るために作り出す色素や苦み成分が体に良い。
④良く噛んで唾液を十分出す。

放射能から体を守るには、
「日本の伝統食材を利用して
きちんと食事をする」ことが
大切です。私たち日本人は、
他の国の人々に比べて、普段
から食物繊維と発酵食品を
多く摂っていますが、これら
は、放射能から体を守るため
に有効な食材です。



わたり病院栄養科科長
管理栄養士
関場治美

- ・茹でて汁を捨てる。
- ・玄米より精白米にしてしつかりといでから炊く。
- ・一度冷凍してから解凍して出てくる水分を絞り捨てる。

食べ物から放射性物質を取り込まない	
① 食物繊維で吸着	海藻や芋のぬるぬる、果物ペクチン、ジャガイモ、きのこ、青菜等がよい。
② 発酵食品で善玉菌を増やす	ヨーグルト、チーズ、キムチ、漬物、味噌、納豆等がよい。
放射性物質を取り込みにくい体づくり	
放射性物質には、似た性質をもつものがあります。この栄養素が不足していると、性質の似た放射性物質を栄養素と	

免疫力を高める食事

放射線に負けない食べ方を表にまとめてみました。参考にしてみてください。

放射性物質	放射性物質と性質が似ているミネラル（多く含まれている食材）
放射性ヨウ素	ヨウ素（海藻）
セシウム	カリウム（果物、野菜、肉、魚など）
ストロンチウム	カルシウム（乳製品、大豆製品、小魚、野菜など）
プルトニウム	鉄（かつお、あさり、ほうれん草、プラムなど）

思つて吸収してしまうので、日頃からバランス良く万遍なく食べて、本物の栄養素を補充しておくことが大切です。

無料 法律相談会

●とき
11月10日(木) 13:30~15:30
12月 8日(木) 13:30~15:30

●場所／医療生協わたり病院内
事前申込制 電話024-522-1236

●相談員
深谷 拓弁護士（あぶくま法律事務所所属）

INFORMATION

これから行事

11月～12月

どうぞ参加ください

西ブロック 健康教室

- ◆日時／11月12日(土) 14:00~16:00
- ◆場所／県青少年会館 第1研修室
- ◆内容／免疫力を高める食事/ヨガ

保健委員会交流集会

- ◆日時／11月17日(木) 13:30~16:00
- ◆場所／福島市市民会館 501号室
- ◆内容／乳がんについて/家庭の除染

南ブロック 健康教室

- ◆日時／11月22日(火) 10:30~11:30
- ◆場所／蓬萊学習センター分館
- ◆内容／ラフターヨガ

野口邦和先生講演会

- ◆日時／12月9日(金) 13:30~15:30
- ◆場所／福島市市民会館 第2ホール
- ◆主催／環境保全ネットワークふくしま県北会議

川俣支部に新班ができました！

ひまわり班



2011年度 インフルエンザ予防接種のお知らせ

（福島市・伊達市・桑折町・国見町・川俣町）

<高齢者の助成期間>

- ※65歳以上の方、障害者手帳1級に該当する60歳以上の方
福島市 平成23年12月24日まで
福島市以外 平成23年12月31日まで

<高齢者の自己負担額>

- | | |
|-------|--------|
| 福島市 | 1,200円 |
| 福島市以外 | 1,300円 |

<任意接種料金>

- | | |
|------|--------------------------|
| 組合員 | 1回目 2,625円
2回目 2,100円 |
| 非組合員 | 1回目 3,675円
2回目 3,150円 |

◇接種回数は、13歳未満の方は2回で、その他の方は1回です。
◇二本松市、本宮市など接種料金は市町村により異なります。予めご確認下さい。

接種予約・お問い合わせは
医療生協わたり病院 TEL.521-2056まで

10/16 さくらみず健康まつり開催

今年の健康まつりは、「仮設住宅入居者の方にも楽しんでもらおう」を合言葉に開催されました。トランペットのファンファーレで始まり、山木屋太鼓、北国の春体操、年々磨きがかかるフラダンスや太極拳に加えて、じゃんけん大会・ラフターヨガなど、みなさんが参加して楽しめるお祭りとなりました。

（組織部 中嶋）



土屋所長に勝つのは、だ～れ。仮設入居者のみなさんも参加。盛りあがったじゃんけん大会

土屋豊一所長 今までありがとうございました。



開所以来所長を担当していた土屋豊一所長にとっては最後の健康まつり。北ブロックの組合員を代表して、佐藤正子理事より感謝の花束贈呈。